

(1) 総ごみ排出量と1人1日あたりのごみ排出量の推移について

①の表は、一般廃棄物処理基本計画策定時の平成24年度を基準年度とし、29年度から昨年度の令和1年度と、目標値である令和4年度の総排出量を棒グラフ(青色は家庭系、ピンク色は事業系)で表し、1人1日あたりのごみ排出量を折れ線グラフで表しています。

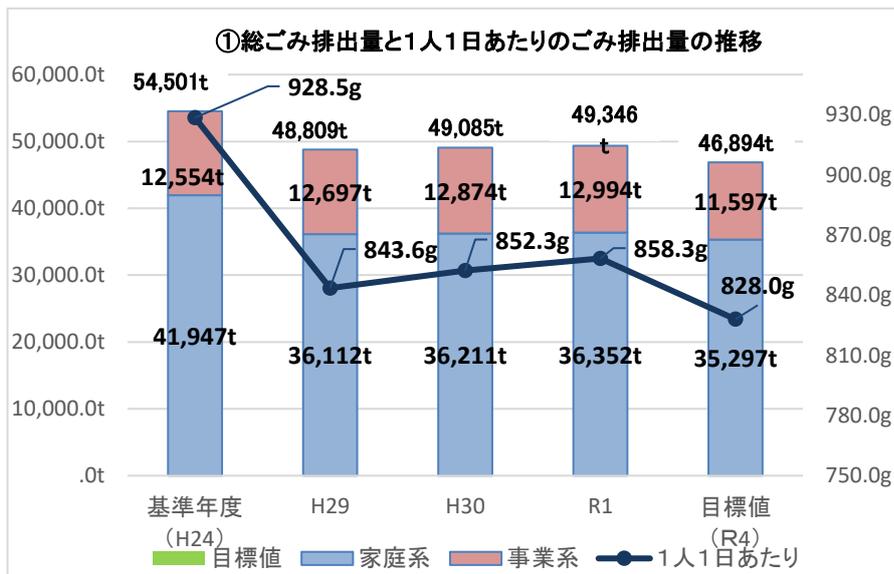
②の表は、同じく基準年度(平成24年度)と、29年度から令和1年度のごみ排出量を分別区分ごとに表しています。

総ごみ排出量は、前年度より261t増えており、特に「燃やすごみ」は前年度より321.8t、「大型ごみ」については128.9t増加しています。

排出量が増加した要因としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響で、3月が特に例年より増加しています。(下表「家庭ごみ量」参照)これは外出自粛による家の片づけの影響や、飲食店からのテイクアウトやデリバリーが増え、家庭から出るプラスチックや、使用済みのマスクや消毒のために使用したティッシュなどが大量に廃棄されることにより、ごみの排出量が増加したものと考えております。

ペットボトルの排出が前年度より増加していますが、これは飲料容器がカンからペットボトルに転向され、販売・消費されているためと思われます。

家庭系、事業系ともに、総排出量は過去3年微増していることから、引き続きごみの発生抑制の周知・啓発に努めます。



② ごみ排出量

(人口は、各年度3月末現在)

(単位:t)

	基準年度 (平成24年度)	平成29年度	平成30年度	令和1年度	
人口	160,815(人)	158,515(人)	157,778(人)	157,080(人)	
燃やすごみ	直営	13,839.5	12,714.5	12,625.4	12,782.0
	委託	11,822.4	10,940.7	10,925.2	11,090.4
燃やさないごみ	750.9	584.7	716.3	710.5	
大型ごみ	2,532.7	627.1	745.7	874.6	
プラスチック製容器包装	1,641.0	1,550.1	1,499.1	1,408.4	
缶類	270.5	214.1	219.6	224.0	
ペットボトル	179.8	209.9	237.0	267.6	
ビン類	1,105.0	993.0	945.9	907.7	
紙・布	2,492.5	2,091.0	2,044.4	2,038.1	
有害ごみ	蛍光灯	18.2	15.7	10.6	10.3
	乾電池	20.3	21.3	21.5	20.8
直接搬入	資源物	417.7	602.1	1,016.8	1,260.5
	燃やすごみ	12,420.1	12,573.9	12,616.1	12,687.3
合計	47,510.6	43,138.1	43,623.6	44,282.3	
1人1日排出量	809.4(g)	745.6(g)	757.5(g)	770.2(g)	
再生資源集団回収量	6,990.1	5,670.7	5,461.3	5,063.6	
1人1日排出量(集団回収)	119.1(g)	98.0(g)	94.8(g)	88.1(g)	
総ごみ排出量	54,500.7	48,808.8	49,084.9	49,345.9	
1人1日あたりのごみ排出量	928.5(g)	843.6(g)	852.3(g)	858.3(g)	

家庭ごみ排出量

(単位:t)

	平成31年(R1)	令和2年	R2, R1対比
3月	2,071.2	2,344.9	273.7
4月	2,422.3	2,510.1	87.8
5月	2,691.6	2,727.4	35.8
計	7,185.1	7,582.4	397.3

※ 家庭ごみ(可燃、不燃、プラ、ペット、ビン、カン、大型)排出量

(2)リサイクル量について

リサイクル量については、基本計画策定時の平成24年度を基準年度とし、平成29年度から令和1年度までと目標値の令和4年度を表示しています。

プラスチック製容器包装とビンについては減少傾向にあります。

ペットボトルについては、総ごみ排出量で述べたとおり、飲料容器がカンからペットボトルに転向した他、無料配布しているペットボトル回収ネットの利用者が増え、正しい分別が進んだことにより、リサイクル量が増えました。

集団回収(新聞紙、雑誌、段ボール等)についても年々減少していますが、自治会加入率の低下、インターネット等の普及などにより、新聞や雑誌の購読者が減っていることが減少の要因と考えられます。

古布については、新型コロナウイルス感染防止の影響で海外のリサイクル工場が操業停止するなどし、輸出が出来なくなり、9月まで排出を一時控えてもらっていたことから、リサイクル量についても影響が出ていると思われます。

国崎クリーンセンターから搬出される溶融スラグ等は28年度までリサイクルされず、大阪湾フェニックスに持ち込まれていましたが、29年度からは路盤材等建設資材としてとしてリサイクルされることになったもので、それに伴い若干リサイクル率も上昇しています。

平成29年度に実施したごみの組成分析調査で、プラスチック製容器包装や雑がみなどの資源ごみが、燃やすごみに排出された地区が多くありました。地域特性にあった正しい分別の啓発を行っていきます。

ごみを適切に処分することも必要ですが、ごみを出さないことが重要です。令和4年度のリサイクル率目標値を下回っていることから、今後も引き続き、「R(あ〜)かわにし」やチラシ等を配布するなどして、ごみ減量やリサイクルについて啓発してまいります。

		平成24年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度
プラスチック製容器包装		1,502.2	1,447.0	1,407.2	1,312.8
カン	アルミ缶	69.0	63.1	66.3	74.4
	鉄カン	205.9	151.3	152.1	146.8
ペットボトル		165.7	198.9	232.4	263.2
ビン	茶色ビン	306.2	265.5	247.4	228.8
	無色ビン	585.3	496.2	479.6	419.3
	その他色ビン	266.9	305.4	282.3	289.1
紙・布	紙類	11.6	21.1	22.1	20.2
	古布類	3.5	10.6	10.9	12.4
	委託	2,492.5	2,091.0	2,044.4	2,038.1
集団回収		6,990.1	5,670.7	5,461.3	5,063.6
蛍光灯		18.7	10.6	10.6	7.0
乾電池		26.1	22.5	22.8	21.1
不燃ごみ(粗ごみ)	破碎鉄	205.2	171.2	231.3	267.8
	破碎アルミ	9.4	8.2	11.9	13.2
	家電品・廃タイヤ・ステンレス	-	2.6	2.1	2.5
粗大ごみ		55.3	26.7	31.0	39.1
小計		12,913.6	10,962.6	10,715.7	10,219.4
燃やすごみ	溶融メタル	-	29.4	29.8	30.1
	溶融スラグ	-	2404.8	2,594.0	2,559.4
	溶融飛灰	-	527.9	554.3	554.5
合計		12,913.6	13,924.7	13,893.8	13,363.4
リサイクル率(%)		23.7%	28.5%	28.3%	27.1%

※ 排出されたごみからリサイクルされた量

【継続事業】

《検討施策1：啓発ツールの作成・活用》

○ 「R(あ〜る)かわにし」の発行

- 令和1年10月1日号 ・生ごみの水切りでごみ減量！
- ・誤解していませんか？生ごみの水切り
- ・プラの分別 間違えないで！

- 令和2年3月1日号 ・特集 お答えします！ごみのなんで？
- ・キッズ「り・ぼ・ん」開催案内

○ 阪急阪神ホールディングス(株)は、社会貢献活動として「未来のゆめ・まちプロジェクト」に取り組んでおり、SDGsのメッセージを伝える「SDGs啓発トレイン」(阪急電車)を走らせることとなり、美化推進課の食品ロス削減キャラクター「中年カラダ 空田完吉(からだ かんきち)」のポスターを掲載しました。

掲載期間は、SDGsトレイン内の車内吊りポスター(ドア横枠)に、3月上旬から5月下旬まで。



○ 食べ残しゼロ運動 (資料4)

募集対象：市内で営業する飲食店、宿泊施設及び食料品小売店

参加要件：下記取り組み項目のうち、ひとつ以上を実践

1. 食べ残し削減の呼びかけ等による啓発活動
例)「30・10運動」の実施、啓発物品の提示 等
2. 適量メニュー等の導入
例)小盛り、ハーフサイズメニューの導入、利用者の要望に沿った量の提供 等
3. 持ち帰りへの対応
例)持ち帰りパックの提供 等
4. 食料品販売における対応
例)ばら売りや量り売りの実施、賞味期限が迫った商品の値下げ 等
5. 上記以外の取り組み
例)プラチナメニューの導入(量より質を重視したメニュー) 等

新たにステッカー、ポスターを作製し、新規登録を募った。

食べ残しゼロ運動登録加盟店：飲食店、スーパー等41店舗

ポスター3種



ステッカー：テーブル、壁に貼るタイプ



○ ラッピングパッカー

ごみ減量の取り組みや食べ残しゼロ運動は、SDGsの169のターゲットのうち、12.3「食品廃棄物の半減」や12.5「リサイクル・リユースにより廃棄物の排出量を大幅に半減」をはじめ、数多くのターゲットに該当していることから、収集車に「SDGs17の目標」のデザインを施し、啓発を行いました。



《検討施策2：啓発促進システムの構築》

- 子ども向け学習会（令和1年度） 21か所 1,853人
市内保育所(園)、幼稚園、子育てサークルなど 12所、園
小学校 2校
その他団体など 7団体
- 大人向け出前講座（令和1年度） 7団体 182人
- キッズ「リ・ぼ・ん」（令和1年度）
令和2年3月14日開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止
（昨年度は大人、子どもを含む800人が参加）
- 夏休みバスツアー（令和2年度）
新型コロナウイルス感染拡大予防のため下記のバスツアー中止
・大阪ガス施設見学とごみダイエツクッキング
・国崎クリーンセンター施設見学とごみ減量体験
- 子ども服リユース「ふクレル」（令和1年度）
令和1年10月26日 キセラ川西プラザ

市内保育所・幼稚園・小学校などに設置した回収BOXを通じ寄付いただいた子ども服を必要な方に抽選で無償提供するイベント。

定員である60組(1部、2部で各30組)を超える94組から応募があり、約87Kg(478点)のリユース子ども服を必要とされる方に譲ることができました。

当日はリユースベビー用品(国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」より提供のベビーカー、小物など)についても抽選会を行い、必要とされている方に譲ることができました。

令和2年度以降、コロナ禍においてイベントが実施できない中、7月には「ネットdeふクレル」と称し、市ホームページを利用してネットで子ども服の譲渡会を開催し、21人応募者の中から、16人、約5.5kgを譲ることができました。

そして10月には、「ネットでふクレル 2020秋」として開催し、20人応募者全員に、8.4kgの子ども服を譲ることができました。

今後は定期的を開催していく予定です。



令和元年10月「ふクレル」の様子

《検討施策3: 大型ごみの有料化》

平成28年5月 有料化導入済

家庭系大型ごみ排出量の内訳として24年度と、大型ごみ有料化前の26年度から令和1年度を表しています。

「大型ごみ(収集)」は、市に事前予約をし、処理券(40cm以上1m未満: 300円、1m以上2m未満: 600円、2m以上: 900円)を購入し、市が指定の場所まで収集に伺うもの。

「大型持ち込み」については、直接国崎クリーンセンターに持ち込んだもの。(10kgにつき80円)

平成27年度は翌28年5月からの大型ごみ有料化に伴う駆け込み排出が原因で、対前年度比1,951t増加しています。28年度は大型ごみが有料化になった5月以降は排出量が減少しましたが、30年度からは行政収集、持ち込みともに、毎年排出量は増加しています。

家庭系大型ごみ排出量

(単位:t)

種 別	24年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度
大型ごみ(収集)	2,532.7	2,437.7	4,364.4	2,559.2	627.1	745.7	874.6
大型持ち込み	119.0	72.9	97.2	210.4	389.0	600.9	736.2
大型ごみ計	2,651.7	2,510.6	4,461.6	2,769.6	1,016.1	1,346.6	1,610.8
1人1日あたり排出量(g)	45.2	43.4	76.9	47.9	17.6	23.4	28.0

《検討施策4: ごみ袋の色指定制の導入》

ごみ袋の中身が見えることによって、袋の中に含まれる資源化可能な紙類などのごみ分別の徹底や再資源化を促進するため、29年2月から、ごみ袋の色指定を行いました。

導入当初は黒色の袋が見られましたが、現在はほぼ解消しており、正しい分別に効果があったものと考えています。